28年漁期 するめいか漁獲可能量(TAC)案について

(単位:万トン)

魚種	系群	資源状態		ABClimit					TAC				備考
		水準	動向	25年	26年	27年	28年	漁獲シナリオ (管理基準)	25年	26年	27年	28年 (案)	
するめいか	【中期的管理方針】 高、中位にある資源が海洋環境の変化により大幅減少に転じる可能性があることから、資源動向の把握に努めつつ、海洋環境条件に応じた資源水準の維持を基本方向として管理を行う。資源水準の変動に際しては、関係漁業者の経営への影響が大きくなりすぎないように配慮を行うものとする。												【28年TAC設定の考え方】 冬季発生系群及び秋季発生系群について、中期的管理方針に則して、ベースとするABCを漁獲シナリオ「②親魚量の維持(冬季発生系群21.5万トン、秋季発生系群20.5万トン)」とし、これらの合計値である42.0万トンから、韓国の直近5年平均の漁獲量16.4万トンを控除した25.6万トンをTAC数量とする。
	冬季発生	中位	減少	25.1	19.3	19.4	21.5	親魚量の維持(②)					
	秋季発生	高位	横ばい	39.7	28.1	40.2	20.5	親魚量の維持(②)					
合計				64.8 (32.9)	47.4 (30.1)	59.6 (42.5)	42.0 (25.6)		32.9	30.1	42.5	25.6	

(注1) 下段()書きについては、日本EEZの値。25年は我が国EEZにおける漁獲割合から算出。26年以降は合計値から韓国の直近5年平均の漁獲量を控除して算出。

(注2) 26年のABCは管理期間を1月～12月から4月～3月に変更し、再計算した値。

【資源評価結果】

〈参考〉 Blimitと親魚量

	資源状態		資源量(親魚量) の状態	漁獲シナリオ (管理基準)	2016年 ABC (万トン)	評価		2015年 親魚量	Blimit
	水準	動向				5年後に 2015年親魚 量を維持す る確率	5年後に Blimitを維持 する確率		
冬季発生系群	中位	減少	>Blim	ABClimit *① 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	20.3	60%	81%	29.1万トン (9.4億尾)	親魚量 19.1万トン (6.2億尾)
				*② 親魚量の維持(Fmed)	21.5	53%	75%		
秋季発生系群	高位	横ばい	>Blim	ABClimit *① 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	11.2	74%	86%	57.6万トン (20.6億尾)	親魚量 40.3万トン (14.4億尾)
				*② 親魚量の維持(Fmed)	20.5	58%	73%		

注) *のついたシナリオが中期的管理方針に合致する。

(参考)

近年の韓国のするめいか漁獲実績※1

(単位:トン)

漁期年(平成)	冬季発生系群	秋季発生系群	合計
16年	68,036	130,975	199,011
17年	64,966	122,657	187,624
18年	74,241	126,737	200,978
19年	75,429	92,892	168,321
20年	66,421	109,570	175,991
21年	69,686	114,830	184,516
22年	72,280	97,324	169,605
23年	100,107	79,168	179,274
24年	68,876	88,503	157,378
25年	85,717	77,911	163,627
26年	80,723	71,823	152,546

直近5年平均	81,540	82,946	164,486
平成28年ABC	215,000	205,000	420,000

※1: 日本EEZにおける韓国の漁獲は除く。

注1. 赤の数字は直近5年間の最大漁獲量

注2. 青の数字は直近5年間の最小漁獲量